



評価のポイント

CL-新人.看護実践能力：協働する力
【52-新人】多職種チームと情報伝達の基本

1. 多職種チームを1つ上げ、チームにおけるそれぞれの職種の役割について考えてみよう。

緩和ケアチーム

【対象】余命が限られたと医師から宣告を受け、病院の緩和ケア病棟に入院中、施設やご自宅で療養中の患者（現状では、がん、エイズ、ALS＝筋萎縮性側索硬化症などの患者が多くみられる）

【チームの目的】治療することがほとんどできない病気になることで、患者とその家族が次のような問題に直面しているとき、早い段階からチームで介入することでQOL（人生の質、生活の質）を改善する。

- ①身体的症状（痛み、吐き気・嘔吐、身体のだるさ、呼吸困難など）
- ②心理・社会的問題（病気による落ち込み・悲しみ、仕事や家族などの悩みなど）
- ③スピリチュアルな症状（死や病気への恐怖、自己の存在意義や価値についての苦しみなど）

参加職種：医師、医療ソーシャルワーカー、看護師、管理栄養士、救急救命士、作業療法士、歯科医師、歯科衛生士、診療放射線技師、薬剤師、理学療法士、臨床心理士など

引用：チーム医療推進協議会HP. <https://www.team-med.jp/archives/team/kanwacare>.

2022/11/28アクセス

2. そのチームでは、目標達成のためにどのような情報伝達が望ましいのか話し合ってみよう。

緩和ケア診療加算の中に緩和ケアチームの設置が条件となっている。また、緩和ケアチームは症状緩和に係るカンファレンスを週1回程度開催し、記録に残すことが求められている。